

12月1日 1986年 井原鉄道が設立しました。

井原線は総社市から清音村、真備町、矢掛町、井原市を経て広島県神辺町に至る延長41.7キロメートルの鉄道です。

井原線の構想は1951年に国鉄吉備線を福山まで延長し、その沿線地域の発展を図ろうとし、関係団体によって建設促進運動が起こりました。2年後には敷設予定路線になります。

1966年7月に国鉄の新線として工事に着手しましたが、国鉄再建のあおりを受け1980年度から建設予算が凍結され、工事の約5割が完成したところで休止に追い込まれました。

その後、産業、経済や観光等地域の振興発展に期待できるという事で、岡山県西南圏域と広島県備後圏の12市町村が主体になり、民間と関係団体によって12月1日井原鉄道株式会社が設立しました。

そして、日本鉄道建設公団により建設工事が行われ、1999年（平成11年1月11日）に開業に至りました。なんと構想から開業まで48年もかかったことになります。

ゆっくりとえば、岡山から伯備線経由で清音に行き、井原線の旅を楽しんで、福塩線で福山まで行くとすれば、朝10時14分に出発して12時04分に到着します。山陽本線を使えば55分新幹線なら15分です。

どのような景色が車窓から楽しめるのでしょうか。1月には今年もワンコインデーが企画されるのでしょうか？ちょっと面白そうです。周辺には、平櫛田中の美術館や矢掛本陣などの観光地もあります。

12月2日 1898年、落谷 虹児が生まれました。

落谷 虹児（ふきやこうじ）は、新潟県新発田市の生まれで、大正から昭和にかけて活躍した挿絵画家・詩人です。

きんらんどんすの 帯しめながら  
花嫁御寮は なぜ泣くのだろ

文金島田に 髪結いながら  
花嫁御寮は なぜ泣くのだろ . . .

の花嫁人形の作詞家としても有名です。

日本画やデザインを学んでいた若き落谷虹児は、竹久夢二との出会いがきっかけで挿絵画家としてデビューし、大正ロマンの少女文化を花開かせた人物といっても過言ではありません。

もう、彼の絵はとてもおしゃれなのです。今見ても！  
当時の少女たちが、どんなに胸躍らせていたか想像に難くありません。

そのため戦時中は制作を休止していましたが、終戦後再び子供向けの絵本などに挿絵を描き、多くの子供たちに親しまれました。

1968年には、三島由紀夫の小説「岬にての物語」に三島自身の要望で挿絵を描いています。そのことについて三島は次のように語っています。

口絵の百合の花束の少女像は心の中深く秘めた美の幻を具現してあますところがない。少女のもつはかない美しさ、憂愁、時代遅れの気品、うつろひやすい清純、そしてどこかに漂ふかすかな“この世への拒絶”、“人間への拒絶”がこの物語の女性像にふさわしい。

ふと、最近では丁寧に書き込まれた挿絵を見ることがなくなったと思いました。母が好んで読んでいた雑誌などにも、モデルが流行の洋服を着ている写真もありましたが、結構挿絵も多かったのを思い出します。特に子供服などは、モデルも少なかったからでしょう。

非現実だからこそ、夢や憧れがより一層引き立つような気がします。写真以上に情緒が育まれるのではないのでしょうか？

12月3日 1805年（文化2年10月13日）華岡青洲が日本初の麻酔を使った手術に成功しました。

記録に残るものとして、世界で初めて全身麻酔を用いた手術（乳癌手術）とされています。青洲はオランダ式の縫合術、アルコールによる消毒などを行い、乳癌だけでなく、膀胱結石、脱疽、痔、腫瘍摘出術などさまざまな手術も行なっています。

全身麻酔に用いたのは、曼陀羅華の実（チョウセンアサガオ）、草烏頭（そううず、トリカブト）を主成分とした6種類の薬草から作った「通仙散」でした。

動物実験には成功しましたが、実際に人体に用いるために実母や妻が実験台になりました。数回の実験の末、母親の死亡、妻の失明を乗り越え、「通仙散」は完成しました。

そのことを有吉佐和子が小説『華岡青洲の妻』に著しています。この小説によって医学関係者の中で知られるだけであった青洲の名前が一般に認知されるようになりました。

ところで、ナス科の植物である朝鮮アサガオの原産地は、南アジアで朝鮮とは、なんの関係もないそうです。この植物が日本に入って来たのは江戸時代で葉と種子を、「ぜんそくの薬」としていました。

1990年代も、オウム真理教が信者を洗脳させる為の薬物原料に、朝鮮アサガオを使用していました。この時「ダツラの技法」と称したとかで、「ダチュラ」という朝鮮アサガオの園芸名は悪いイメージがついてしまったため、現在は「エンジェルズ・トランペット」という名前で販売されているそうです。

12月4日 聖バルバラの日

バルバラってご存知でしたか？

キリスト教の聖女と言われているようですが、こんな伝説があります。

キリスト教が禁じられていた、マキシミアヌス皇帝の治世下(3世紀末～4世紀初頭)ニコメディア地方にディオスコロスという大商人がいました。

その娘の名はバルバラと言いました。たいそうな美しい娘で求婚者が後をたちませんでした。娘を溺愛していた父親は高い塔を作り、そこにバルバラを閉じ込めてしまいました。

バルバラの世話をする侍女がキリスト教徒だったので、寂しさを慰めながら彼女の話の聞いているうち、バルバラもキリスト教に帰依するようになりました。

あるとき、バルバラの父は自分が留守の間に、塔に浴室を作るように大工に命じました。大工に命じられた浴室の窓は2つのはずでしたが、バルバラは3つに変更させました。父が戻ってきてなぜ3つになったのかと尋ねると、バルバラは「窓は2つしかなければ人間にとって闇。3つで父と子と精霊の祝福があって初めて光が入ってきます」と答えました。

父は娘がキリスト教徒になったことに怒り、剣を抜いて斬りつけました。しかしバルバラが祈ると岩が二つに割れて彼女を包み込み、遠くの山まで連れ去ってしまいました。

バルバラはしばらく山の中で暮らしていましたが、やがて羊飼いが彼女のことを父に密告しました。すると、羊飼いが飼っていた羊はみんなイナゴになって逃げてしまいました。

父はバルバラを連れ戻し、ローマの総督に身柄を引き渡しました。総督は彼女に火で身体を焼いたり、鉄槌や鞭で打ったりして拷問を加え改宗を迫りましたが、バルバラは改宗するどころか、神の加護により翌日には傷が癒え、真っ白い布が彼女の体を覆い隠していました。

ついに、父親はバルバラを見せしめとしてアラシオンの村で斬首しました。

バルバラは提督に引き渡される道すがら、桜桃のつぼみを折って獄中の壺の中に入れておきましたが、それが処刑の日に見事な花を咲かせました。

この逸話からドイツやフランスのアルザス地方ではサクラやアンズ、リンゴ、レンギョウなどの枝を12月4日の聖バルバラの日に水にさし、クリスマスの頃についた花の数で幸福を占うそうです。また、聖バルバラの日に水に浸した小麦がクリスマスに芽吹いた数によって翌年の豊凶の占いも行ないました、それぞれ「バルバラの枝」と「バルバラの麦」と呼ばれたそうです。

ドイツの諺では「白い衣装のバルバラは良き夏の季節を告知する」といい、聖バルバラの日に降る雪は翌年の夏の豊作の兆しだと言われています。

12月5日 1889年 吉本せいが生まれました。

吉本興業は1912年 吉本夫妻が天満八軒の一つ「第二文芸館」を入手して、寄席経営を始めたのが興りです。

翌年には大阪南区笠屋町に「吉本興行部」を設立しています。当時大阪にあった多くの寄席を傘下にいれて1915年には「花月」と称しました。1924年には夫の泰三が急逝したため、せいが経営を引継ぎ、「女今太閤」と呼ばれるほどの、経営手腕を発揮しました。

よしもとと言えば、漫才やコントなどのお笑い芸人や喜劇、そのほかあらゆる興業事業を手がけていますが、漫才や喜劇の起源に「俄（にわか）」と呼ばれるものがありました。

俄は、江戸時代から明治時代にかけて、宴席や路上などで行われた即興の芝居のことで、またの名を茶番とも言います。

素人が歌舞伎の演目を再現したり、滑稽な話を演じたりすることが多かったそうです。大阪にわか、博多にわか、肥後にわかなど各地に俄芸能があったようです。こうした流れを汲んで大阪には、多くの寄席があり、多くの芸人が活躍していたようです。

「芸のためなら女房も泣かす／それがどうした文句があるか」という「浪花恋しぐれ」の歌でも有名な桂春団治は、吉本専属の落語家として最初に高座に上がった人です。その破天荒な生き方は多くのエピソードとともに、上方の伝説になっています。

戦前には横山エンタツ・花菱アチャコなどが、一世を風靡しています。

おっちゃんが知っている古い芸人さんと言えば柳家金語楼、由利徹、白木みのる、花紀京、岡八郎、原哲男、財津一郎、ミヤコ蝶々・・・

最近の若い芸人さんの活躍は言うまでもなく、力道山のプロレス興業まで手がけた吉本100年の歴史は、日本のお笑いの歴史です。日本独自の文化のひとつのようです。

12月6日 1768年『ブリタニカ百科事典』第1版が発行されました。

ブリタニカ百科事典なら学校の図書館にありました。これを便利に使うほど、勉強はしなかったけど・・・。ブリタニカは1768年スコットランドのエディンバラで初版が印刷されました。そのときは、週刊で100分冊になっていたようです。1901年からは著作権がアメリカに渡りました。

10版は日本語にも翻訳され当時の著名人がこぞって購入し、それを広告で誇示することで一般の購入を勧めたようです。伊藤博文、後藤新平、新渡戸稲造、徳富健次郎、犬養毅などの名前が掲載されました。当時の発売特価格はクロスのもので175円、総皮のもので280円、通常半額だそうです。

出ました！ 昔の貨幣価値は・・・大正初期に、大阪市天王寺区の1坪が大体100円で取引されています。またアメリカ製の自転車は200円、自動車は5000円、グランドピアノが750円という記録があります。多分、今の感覚で100万円近いものではなかったのでしょうか？

おっちゃんの子供の頃でさえ、百科事典と言えば、数十万円もするのを月賦で買って、応接間にど〜ん！！と飾るのがステータスだった気がします。付録(?)にサイドボードみたいな本箱とか付いていたりし

て。。。。。

そもそも百科事典の歴史を紐解けば、ヨーロッパでは紀元前2世紀頃から古い書物を収集し、その内容をまとめることが行われていました。事典の形になるのは10世紀になってからのようです。

一方アジアでは1607年中国明の時代に全106巻に及ぶ『三才図会』という図入りの百科事典がありました。日本でもこれに倣い、江戸時代の1712年、寺島良安によって『和漢三才図会』がまとめられています。この中には「不死国」「長脚国」といった今から考えれば空想世界の記述もあったそうです。

知識を体系だててまとめ、すばやく利用したいと思って多くの知識人が百科事典の編纂を手がけてきたのですね。人間の知識欲の集結が百科事典かもしれません。それと見栄と。。。

今はCD-ROMやインターネットで調べ物が簡単にできるようになりました。

ブリタニカ大百科事典は2010年を最後に印刷物として出版されることはなくなりました。1990年には12万部が販売されたブリタニカですが、2010年版はわずか8000セットしか売れていないそうです。32巻の印刷物はたった6枚のCD-ROMに収められる事になったのです。

12月7日 クリスマスツリーの日

1886年12月7日横浜に外国人船員のためのクリスマスツリーが飾られたことに由来しています。クリスマスツリーは、古代ゲルマン民族の「ユール」という冬至の祭で使われていた樅の木が元になっており、冬でも葉を枯らさない樅は生命の象徴とされています。それが15世紀初めドイツに伝わり、キリスト教とともに広がっていったとされています。

先日も、ニューヨークのロックフェラーセンターのクリスマスツリーの点灯式の模様をニュースで見ましたが、この時期の楽しみと言えきれいに飾られたクリスマスツリーやイルミネーションですね。

ところで、シカゴを代表するコラムニストの一人マイク・ロイコが「クリスマス・コラム」の中で「これまでに見たどんなツリーよりも美しいクリスマスツリー用の木を手に入れる秘訣」を語っています。

ある大変貧しい若い夫婦が、ツリーの市場にやってきました。もう、わずかしかつリーは残っておらず、しかも売れ残りは形も悪くとても使い物にならないものばかりでした。

それでも二人は、少しでも形のよいツリーを探して値段を聞きますが、二人には高すぎました。諦めて帰りかけた時、妻の方が何かを思いついたようで、夫に何か耳打ちをして戻ってきました。

そして、片側半分には枝のない、とてもみずぼらしいツリーを2本選んで値段を聞きました。店の人は、売れるはずもないその木を、ただ同然にまけてくれました。それを、二人は嬉しそうに持ち帰ったそうです。

店の人は、一体二人がどんな話をしたのか、そしてみずぼらしいツリーがどんなになったのか気になって、彼らの家を訪問したそうです。すると彼らの家には形のよい立派なツリーが飾られていたのです。あのみずぼら

しいツリーはどうなったのか・・・。

枝のあるところをうまくつなぎ合わせて、完璧な形に作り上げたのです。つなぎ合わせたなんて全然分からない、素敵なツリーになっていたそうです。

これが「誰も見たことのないような美しいツリーの木を手に入れる秘訣」そして、これは人間の場合も同じこと・・・と締めくくっています。

マイク・ロイコのコラムは全米500紙以上の新聞に配信され、コラムニストファン投票も3回連続1位を受賞しています。ワシントン・ポスト紙は彼を「アメリカの宝物」と評しています。男のエッセイ・辛口エッセイなど、ユーモアたっぷり、しかもちょっと辛口、時々心あたたまるエッセイがたくさんあります。

12月8日 1980年ジョンレノンが凶弾に倒れました。

ジョンレノンについて、今さら何かを説明する必要はないと思います。

彼が亡くなった時、ものすごく残念な気がしたのは、おっちゃんだけではないと思います。もっと長生きをしていたらどんな歌を聞かせてくれたんだろうかと思います。

Imagine、Give Peace a Chance、Happy Xmas (War Is Over)など、反戦、平和のメッセージをこめたものと言われ、ジョンレノンは平和運動家としても知られています。

世界で、きな臭い事件が起こるたびに、メッセージをこめた歌を披露してくれたら・・・  
本当に戦争や内紛なんて無くなるんじゃないかと Imagine

時節柄 ハッピー クリスマス の歌詞から

So this is Christmas            And what have you done  
Another year over            A new one just begun  
And so this is Christmas        I hope you have fun  
The near and the dear ones        The old and the young

A merry merry Christmas        And a happy New Year  
Let's hope it's a good one        Without any fear

弱い人たち 強い人たち 金持ちの人たち 貧しい人たち  
世界はこれでいいとは思わないが  
ともかくハッピー クリスマス

優しいメロディーを聴きながら、優しい気持ちになってきます。

12月9日 1915年 三毛別熊事件がおこりました。

さんけべつ ひぐま 事件 って？

これは 大正4年に北海道苫前町古丹別でヒグマが民家を襲い、開拓民7名が死亡し3名の重傷者が出た事件のことです。

ヒグマに襲われると言えば、今年の春にも八幡平クマ牧場で飼育されていたヒグマが人を襲った事件が記憶に新しいことと思います。八幡平クマ牧場は経営難でヒグマに満足な餌を与えていなかったとかで、飢えたクマがいかに獰猛であるか改めて感じたものです。

この三毛別熊事件も、冬眠前のヒグマが、食べ物を求めて里にやって来て人を襲ったと考えられていましたが、開拓によって野生動物と人間の活動範囲が重なった結果が引き起こしたものだとも考えられています。

最近では、住宅街でクマが出たと大騒ぎになることもあり、里山にクマの餌が無くなったことや、耕作放棄地が獣を民家の近くまで呼んでしまうことなど指摘されているようです。

映画「グリズリー」ではハイイログマが人を襲う恐怖映画として、日本でもヒットしました。この中で、クマに襲われて全滅する村が登場しますが、似たような事件は各地にあるのかもしれませんが。

三毛別熊事件は、吉村昭によって『熊嵐』という小説になっていますし、木村盛武は『慟哭の谷』でドキュメンタリーとして書いています。また、増田俊也の長編小説『シャトゥーン ヒグマの森』にも、影響を与えているようです。この小説は、第5回『このミステリーがすごい!』大賞優秀賞を受賞していますが、かなり残酷なシーンも描かれているそうです。

自然の中の、一生物としての「人間」という立場を、真摯に考えないといけないこともありますね。人の便宜ばかり優先すると、時に大きなしっぺ返しが来ることは、今までに何度も経験しているのに懲りないとは・・・結局、最も愚かな生物なのかも。

12月10日 1968年東京都府中市で三億円事件が起こりました。

おっちゃんにとって三億円というのが、どのくらいの大金かまだ分からない頃の事件でした。

鮮やかに(?)三億円をさらっていったこの事件は、当時の人々の度肝を抜き、大変な話題になりました。ルパン三世みたい？

その後、いろいろな検証番組やこの事件を扱った小説や映画など製作されました。ミステリー大好きな日本人の好奇心を大いにくすぐったものです。もし三億円があったら・・・なんて、よくない想像をしてみたりもして。

結局、時効になり事件の真相は分かっていません。

その時公開されたモニタージュ写真ですが、目撃情報を元に作成されたものではなく、容疑者ではないかと思

われた少年の顔そのもので、真犯人とは違っていたようです。

指名手配犯の写真と言えば、オウム真理教の面々にしても、先だって岡山で死亡が確認された小池容疑者にしても、写真では、なかなかイメージがつかめないものです。笑ってしまったのは、駅で見かけた「渋谷暴動事件」指名手配の大坂正明のポスター・・・昭和24年生まれにもかかわらず、写真は20代。これじゃ、何の参考にもならないよね。

DNA鑑定やら科学捜査が進歩しても冤罪はあとを絶たないし、空き巣に狙われた家で指紋を採取するのも無駄な気がします。いまだき素手で空き巣する犯人っていないでしょ?!無駄と分かっているけど、昔ながらの形通りの手順を踏まないと先に進めないってことでしょうか。

12月11日 国際山の日

国際連合では2002年の国際山岳年を記念し、翌年から毎年12月11日を「国際山の日 “International Mountain Day”」とすることを提唱しました。この日には、世界各国で山に関する催しを開くことが期待されています。

「山がそこにあるからだ」と言った登山家はジョージ・マロリーですが、体力の限界に挑戦し、高い山を征服するのは、何ものにも換えがたい快感があるのかもしれない。

しかし、最近では中高年による登山ブームで遭難者も後を絶ちません。無謀な登山計画はもちろんです、むやみに山に登ることで環境が荒らされていることも否めないようです。山の環境を守りながら、そして健康のため、楽しく山に登るよう万全の準備と節度を守って出かけて欲しいものです。

NHKで知った犬塚勉さんの絵、素晴らしいです。自然そのものが、そこにあるという感じです。人が描いたものとは思えないのです。犬塚氏は、厳しいランニングを日課にし、自然食に切り替え、身も心も鍛え抜いた飾り気のない人間になって、ようやく草や木が描けると考えていたと言います。

ストイックな生活により、濁りを全て捨て去った時に、初めて描くことが出来るのが、こんな自然の絵なのかと思えるのです。25日まで 三次市の奥田元宋・小由女美術館で特別展を開催しています。

犬塚勉のことを書きながら、写真は白旗史朗です。この写真家もすごいです。山岳写真家と言えば 白川義員の写真展には行ったことがあります。藤田弘基もNHK特集になりました。高い山は、崇高な感じがします。人を寄せ付けない厳しさがあります。信仰の対象になるのも分かります。

ところで、高い山だけが「山の日」の対象ではなりません。日本人の暮らしを支えていた里山は、最も身近で、守らなければならない自然です。また、海の資源を守るためには、山を豊かにしなければならないと言います。水源も山が守ってくれます。動植物の生態系を守る上でも、山は大切です。

どこか、ひとつバランスが崩れても、私たちの生活に影響してきます。自然環境が破壊されたら、経済成長なんて言っていられませんよね。

12月12日 漢字の日



財団法人日本漢字能力検定協会が1995年（平成7年）に制定した記念日で「いい字一字」が「1（いい）2（じ）1（いち）2（じ）」の語呂合わせが由来です。

そして、日本漢字能力検定協会が今年を表現する漢字を全国から募集し、この日京都市の清水寺で発表し、「今年の漢字」としています。

漢字能力検定は、よく知られた検定で受験した人も多いことでしょう。あまりの人気ゆえ、協会が儲かりすぎて理事長と副理事長が不正をしていたという事件もありました。

漢字能力検定協会は1975年に設立され、漢字検定を始めました。1992年からは文部省認定の検定団体となり、財団法人に昇格しています。1995年から「今年の漢字」の募集・発表を始めています。ちなみに初回に選ばれた漢字は「震」 ちょうど阪神大震災と地下鉄サリン事件の起こった年でした。

2009年には漢検協会事件が起こり、大久保理事長が辞任しています。

ところで「今年の漢字」は、どうして清水寺で発表されるのでしょうか？

1995年当時、理事の一人であった清水寺貫主の森清範が巨大な和紙に漢字一字を揮毫していました。漢検事件後、森貫主は協会を辞任しましたが、「今年の漢字」に関しては従来どおり協力することになったそうです。

歴年の「今年の漢字」を見てみれば、好ましい文字よりセンセーショナルや厳しい字が多いように思います。

シドニーオリンピックの年の「金」

愛知、愛・地球博の年の「愛」

悠仁親王誕生の年の「命」

そして昨年の「絆」 などが、好ましい漢字でしょうか・・・

さて、今年の漢字は何になるでしょう。今年は、ロンドンオリンピック、i p s細胞、原発問題など思い浮かびますが、ドン「詰」まりとか「閉」塞とかだと嫌ですね～。

12月13日 1959年『兼高かおる世界の旅』が放送を開始しました。

1990年まで30年10か月も続いた長寿番組です。

子供の頃、日曜日の朝といえば、この番組でしたね。兼高かおるという人が、どんな人なのかよく分からなかったのですが、世界中を旅して、大勢の人と出会って、すごい女性だなあと思っていたものです。

しかも、兼高さんの「・・・ですよ」とか「・・・ますでしょ」とか、話し方も上品で、芥川隆行氏とのやり取りも軽妙で、本当におしゃれな番組でした。

1ドルが360円の時代、外国旅行なんて、まだまだ夢みたいな時代でしたから自分の生活とは別物、でも、この番組はお茶の間に楽しめる外国旅行と言ってもよかったです。

この番組では、兼高さんがディレクター、プロデューサー、レポーター、ナレーター、そして時にはカメラマンすべてを兼ね、世界各地 160 か国を取材した映像を放送していました。

日本国内に高速道路が無い頃、高速道路をどのように伝えるか、またサッカーが日本ではまだ人気が無い頃、サッカーが国民的スポーツだといっている国との温度差をどのように伝えるかなど、苦労も多かったようです。

兼高さんは、番組を始めた理由として日本人は世界各国の習慣・社会・食物について知っておく必要があるということ、またそれにより海外の出来事に関心を持つ機会を多く持って欲しいと思ったことを挙げています。

確かに時代に必要とされた番組だったと思います。そして、人々が簡単に外国旅行に行けるようになったときに、この番組は終了したと言えるでしょう。

インターネットの発達で世界が狭くなった分、また、行こうと思えばいつでもいけるという安心からか、外国旅行のあり方は、また少し変化してきているかもしれません。あ、不況で、いつでも行けるという訳にはいかないか・・・？

12月14日 1913年 日本海軍の戦艦「榛名」が進水しました。

英語の Wikipedia 12月14日に日本関係の出来事が、この戦艦「榛名」の進水と1941年に日泰同盟条約締結のふたつでした。

英語で書かれるほど「榛名」は、すごい戦艦だったのですね。第一次世界大戦、第二次世界大戦にわたり活躍した戦艦で、空母「瑞鶴」、駆逐艦「雪風」などと共に「日本海軍の武勲艦」と言われています。

榛名は太平洋戦争の開戦時、すでに艦齢26年の老朽艦でしたが数々の海戦を生き延びました。しかし、レイテ沖の海戦後、修理のために呉に停泊中の1945年数回の爆撃を受け、終戦後解体されました。そのため、戦後復興の資材となって使命を全うしたと評されることもあります。

さて、榛名の艦名は群馬県にある上毛三山の1つ、榛名山に由来します。船の名前に詳しい人なら、山の名前が付くのは「一等巡洋艦」だをご存知でしょう。榛名も当初は「第二号装甲巡洋艦」として計画され、1911年4月、神戸川崎造船所に発注されたものだったのです。

その後、改装し戦艦として1931年に登録されました。名前はそのままでしたので、本来なら「旧国名」を使用する戦艦にありながら、山の名前をもつ戦艦になりました。

ところで、現在、自衛隊で使用されている護衛艦で旧国名が付くのは「ひゅうが」「いせ」（13,950トン級）があります。山の名前のつく一等巡洋艦は「こんごう」「きりしま」「みょうこう」「ちょうかい」「あたご」（7000トン級イージス艦）、川の名前のつく二等巡洋艦は「あぶくま」「じんつう」「おおよど」「せんだい」「ちくま」「とね」（2000トン級）

2011年に退役した護衛艦に「はるな」があります。多分、この名前を襲名する船が、また造られるのではないかと思います。船の大名跡とでも言いましょうか？

12月15日 1918年 いわさきちひろが生まれました。

大抵の人が、いわさきちひろさんの挿絵で絵本を読んだことがあるでしょう。にじみやぼかしを多用し柔らかで澄んだ、独特の色合いを持った絵、つぶらな瞳の子供の愛らしい表情は誰をもとりこにしてくれます。

ふんわりした仕上がりであるにもかかわらず、デッサンの正確さと細かい表情や描き込みは卓越したものがあります。

いわさきさんは、一時、丸木俊さんに師事していたことがあります。「ひろしまのピカ」をはじめ、平和や子供の人権尊重を訴える絵本を描いている丸木さんの影響を受けているのか、愛情ぶかい観察眼で、多くの子供の絵を描いています。作品は9400点を超えます。

青春時代に戦争を体験しているので「世界中のこども みんなに 平和としあわせを」ということばを残しています。いわさきさんが描いた子どもや花は、今もいのちの輝き、平和の大切さを語り続けています。

またアンデルセンに思い入れがあったようで、アンデルセン童話にも多くの挿絵を描いています。

そういえば、子供の頃、買ってもらったアンデルセン童話、「にんぎょひめ」はいわさきさんの挿絵でした。人魚姫のかわいらしい表情が大好きでした。

1974年 55歳という若さで亡くなっています。亡くなった後からも、多くの作品が出版されましたが、その中で最も有名なのが黒柳徹子の「窓ぎわのトットちゃん」の挿絵ではないかと思います。

あの、可愛らしい人魚姫の挿絵が、いわさきちひろと言う人の作品だと知ったのも、彼女が亡くなってからのことでした。

12月16日 1893年 ドヴォルザークの交響曲第9番『新世界より』がニューヨークのカーネギー・ホールで初演されました。

この時期、交響曲9番と言えば ベートーヴェンじゃないの？ と言われそうですが、ドヴォルザークです……。

初演はアントン・ザイドル指揮、ニューヨーク・フィルハーモニック協会管弦楽団で、大成功だったと伝えられています。日本での初演は1920年12月29日、東京の帝国劇場において、山田耕筰指揮、日本楽劇協会によって行われたそうです。

曲の始めの「ジャー جان ジャー جان ジャー ジャン」とテンションが上がっていくところは、まさに交響曲という感じがします。この曲を初めて聴いたのは中学生の時、カラヤンの指揮だったと思います。(もちろん生ではないです) そのときからカラヤンのファンでした。

三大交響曲のひとつとして、ベートーヴェンの交響曲第5番『運命』、シューベルトの交響曲第7(8)番『未完成』

と並び人気の高い曲です。演目に三大交響曲を謳った演奏会もあります。

ちょっと贅沢すぎ？まるで、フランス料理、中華料理、会席料理のフルコースみたいじゃないですか。満足して途中で寝てしまいそうです・・・。

第二楽章は堀内敬三による『遠き山に日は落ちて』のタイトルの日本語詞がついていて、これもよく知られていると思います。本田美奈子や平原綾香も独自の歌詞で歌っています。

12月17日 1903年 ライト兄弟がキティーホークの町で人類初の有人動力飛行に成功しました。

自転車屋を営んでいた兄弟は、多くの参考書を読み、空を飛ぶ研究をしましたが、その参考書の設計図では、どうしても飛ぶことができなかつたようです。そのため独自の研究をしなくてはならなくなりました。

初期には風を揚げるように紐をつけた機体を浮かした実験や、ハングライダーのように2枚の翼の間に寝そべって飛ぶ実験などを行っています。こうした風洞実験を何百回と繰り返し飛行機の発明に至りました。

その後、独自の航空機用の軽くて馬力のある12馬力90kgのエンジンを開発しました。自転車屋を経営することで資金を得ることが出来、また自転車の技術を応用することができました。

向かい風の吹く17日、最初のフライトで12秒120フィートを記録しました。この日、あと3回フライトを試みて4回目には852フィート59秒のフライトに成功しました。

しかし当初は、機械が空を飛ぶことは不可能だと発言する科学者が相次ぎ、実験が成功したことさえ信用されませんでした。

いまだに、鉄の塊が空を飛ぶのは信じられないとって、飛行機に乗らない人がいますが(笑)、当時なら信じられなくて当然でしょうね。

その後、兄弟は次々と飛行機を開発し1907年には実用のモデルを作っています。後に軍隊に買い取られた兄弟の飛行機の値段は25,000ドルだったそうです。

兄弟が設立したライト社は1915年弟のオーヴィルが売却しますが、その後カーチス社と合併し第二次世界大戦時には軍用機メーカーとして全盛期を迎えます。

カーチス・ライト社は戦後民間機の開発に出遅れ1946年に事実上倒産します。ただ、その系統はわずかにボーイング社に引き継がれていると言えるかも知れません。

12月18日 1898年上野恩賜公園にある西郷隆盛像の除幕式が行われました。

実物は見たことが無くても、恐らくたいの人が知っているのではないかと思います。長い間この像は、犬を連れて夕涼みがてら散歩をしているのだと思っていましたが、実は違うのですね。

これは、猟犬を連れてウサギ狩りのために山に入っているところだそうです。その証拠に、腰にワラで作ったウサギの罠を下げているのだとか。

そして、なぜ着流しの像になったかといえば、西南の役から 21 年経っていましたが、西郷隆盛の衰えぬ人気ゆえに、軍服姿では、反政府分子たちを煽動しかねないとの計らいだったと言われています。

一時は、逆賊と見なされましたが、1889 年には明治天皇より正三位を追贈され、廃藩置県、徴兵制度、身分制度の廃止、学校、警察、銀行、太陽暦採用等、近代日本の礎を築いた功を称えられました。

さて、この像の足元には「敬天愛人」西郷隆盛と銅像の由来という碑文があります。この言葉は西郷隆盛が好んで使い、よく揮毫していたそうです。

天を敬い、人を愛する。つまり

「人は天命というものを天から与えられ、それに従い生きているのである。天というものは、人々を平等に愛してくれるものだから、人は他の人に対して天と同じように慈愛を持って接することが必要である」

そのように、西郷隆盛は終生心がけていたのだそうです。

ギョロ目でこわそうな上、戊辰戦争の大將であつたり征韓論者だつたりで、敬愛の人というイメージが無かったのですが、各地に銅像がある西郷隆盛は、やはり尊敬される人だったのですね。

西郷隆盛の遺訓集、「南洲翁遺訓」は、読むべき価値があるかも・・・

12 月 19 日 1686 年ロビンソン・クルーソーが無人島から脱出しました。

これは、フィクションの出来事です。イギリスの小説家ダニエル・デフォーが著した『ロビンソン・クルーソー』の中に描かれています。

ロビンソンは 1632 年生まれで、1659 年 (27 歳の時) に無人島に漂着し 1686 年に島を脱出したので、27 年ほど島で暮らし、54 歳に故国に帰ったこととなります。

無人島に漂流し衣食住の問題から解決し、人食い人種との戦いがあたり数々の困難の末、敬虔なキリスト教徒になっていきます。日本人はキリスト教の考えには馴染みが無いかもしれませんが、一人で暮しながら内省すれば「人はなぜ生きていくのか」という大きな問題にぶつかるのかもしれない。

西郷隆盛は徳之島や沖永良部島に流刑になっていますが、その時に敬天愛人の考えに共鳴したことは頷ける気がします。

ところで、「27 年の無人島暮らし」で連想するのが、太平洋戦争の終結から 29 年間フィリピンのルバング島に潜伏していた小野田寛郎さんやグアム島に棲んでいた横井庄一さんのことです。旧日本軍人が南方の島で発見されたニュースは、戦争を身近に感じることの無かった私たちに大きな衝撃を与えました。心底驚いたものです。

ロビンソンと同じような経験をされたと思います。同じような考え方をするようになったのかもしれませんが。私たちの暮らしは、あまりにも慌しくて、内省どころか、ちゃんと考えたり意見を持ったりする間もなく、流されてしまうことも少なくない気がします。

そんな状態では、他人に対する思いやりも忘れてしまうのではないかと、ちょっと心配になってしまいますね。無人島暮らしは、ちょっと勘弁して欲しいですが、時にはリフレッシュできる時間を持ちたいものです。

12月20日 1899年東京郵便電信局で、初めて年賀郵便特別扱いを開始しました。

年賀状の習慣は、随分昔からあるようで 飛脚の制度と暦の文化が確定された大化の改新のことには、すでにあつたと言われています。文献に残っているのは、平安後期、書状によって年始の挨拶をしたことが、藤原明衡によってまとめられた往来物「雲州消息」に、まとめられています。

はがきによって年賀状を出すようになったのは、明治になってから。

1873年に郵便はがきが発行されてから、安い料金で簡単に送れるようになったので、庶民にひろまっていきました。特に1月1日の消印を求めて、多くの人が年末年始に集中してはがきを投函していたようです。(当時は、受付局と配達局のふたつ消印があつたそうです)

1907年には、表に「年賀」と朱書きして、他の郵便物と区別しています。1月1日の消印を押された年賀状は、年明けに順々に配達されたようです。

年賀状に貼るために、年賀切手のデザインにも工夫を施されていきました。

関東大震災の年と大正天皇が崩御した年、また太平洋戦争中は、年賀状の特別取扱を中止したり自粛したりしていますが、1948年には復活しています。

1949年にはお年玉つき年賀状が発行され、大ヒットしたそうです。年賀状の消印が廃止されたのは1961年、その代わり、額面表示の下に消印に模した丸表示を印刷するようになっています。

1982年からは、絵柄付きの年賀状が発売されるようになります。そして郵政民営化の後には、カーボンオフセット年賀はがきやキャラクターなどの新商品が出されるようになっています。

年賀の習慣は、日本だけでなく外国にもあつたそうですが、欧米ではクリスマスカードが主流で、今は年賀の習慣はほとんどみられないようです。中国・韓国では、まだ年賀状を出すようです。

日本で年賀状のやり取りが、いまだに年末年始の風物詩になっているのは、お年玉付き年賀状のお陰ではないかと思えます。1年に1回、年賀状だけで消息を知る友人のいかに多いことか・・・それが、いいことなのか、よくないことなのか、分からないのですけど。

年賀状の受付は15日より始まっています。25日までには投函するように郵便局から言われていますので、今週末にはなんとか書き上げないといけませんね。

12月21日 回文の日

俳句回文の作家である宮崎二健さんによって提唱されました。回文とは「ダンスがすんだ」とか「竹やぶ焼けた」のように、頭から読んでも後ろから読んでも同じ意味になる文章です。

昔 ひらけ！ポンキッキで 「回文 21 面相」という歌があり、ちょっと怖いけどリズムカルなメロディーと面白い歌詞、へんてこな画像がとても印象的でした。

こういう言葉遊びに興味があれば、どうやったら回文が作れるかコツを（受け売りですが）ご指南いたしましょう。

- 1 基本になる言葉を決めます。たとえば「おかやま」
- 2 おかやま を 回文にします。A「おかやまやかお」と B「まやかおかやま」 の2つできます。
- 3 Aならば 「かお」につながる言葉を考えます。 顔～ とか 香るとか香り とか Bならば 「やま」につながる言葉を考えます。山～ とか やましい とか
- 4 Aの場合 かおる とすれば 「るおかやまかおる」 で 次に 「る」で終わる言葉を考えます。
- 5 しげる とすれば 「しげるおかやまかおるげし」 茂る丘 山や、香る夏至（夏至の頃、緑が茂り青葉の香りがする）・・・ちょっと苦しい？
- 6 Bの場合 やましい とすれば 「いしまやかおやましい」 次に「い」で終わる言葉を考えて 「よいしまやかおやましい」 酔い島、や！顔やましい（島さん、酔ってないって言うけど、顔真っ赤でやましいよ）って、相当 苦しい・・・

12月22日 インド数学の日（ラマヌジャンの誕生日 1887年）

インドではラマヌジャンの生誕 125 周年を記念して 2012 年を「インド数学年」、誕生日 12 月 22 日を「インド数学の日」と定めています。ラマヌジャンはインドの数学者で極めて直感的、天才的な閃きにより「インドの魔術師」と呼ばれました。

インドと数学と言え、とても興味がありますね。

インドで「0」の概念が生まれたと言われますし、ヒンディ語で「パハラ」と呼ばれる九九をインドの人は 20×20 まで覚えているのだとか。また、日本語や 英語など大概の言語は、1 から 10 まで覚えれば、あとはその応用でいくらでも大きい数を数えることができます。ところがヒンディ語では 1 から 100 まで全 て違う言葉です。全く法則がないそうです。子供たちは、100 まで数えられるようになるまで、ちょっと大変みたいです。

インド式の計算方法は、ちょっとユニークですが、まさにコロンブスの卵で、すばやく正確に計算できる仕組みを持っています。機会があれば、またご紹介するとして。

天才的な数学者ラマヌジャンのエピソードに

「今日乗ったタクシーのナンバーは 1729 だった。さして特徴のない、つまらない数字だったよ」と聞いたラマヌジャンは、すぐさま 「そんなことはありません。とても興味深い数字です。それは 2 通りの 2 つの立方数の和で表せる最小の数です」と答えたという話があります。

1729 は 12 の 3 乗 + 1 の 3 乗 もしくは 10 の 3 乗 + 9 の 3 乗 の 2 通りで表すことができますが、ラマヌジャンがいかに数字に精通していたかを表しています。始めに 1729 がつまらない数字と言ったのも有名な数学者でした。

数学的考え方には、なるほどと思うことも多いですが、あの訳の分からない公式を次々に解いていくのは、尋常な人間業には思えないのです。最近では、電卓を使うのが当たり前になっていますが、時々暗算をして脳を鍛えておかなければ……。

12 月 23 日 1823 年ニューヨーク州トロイの新聞『トロイ・センチネル』に匿名の作者による『サンタクロースがきた"A Visit from St. Nicholas"』の詩が掲載されました。

サンタクロースと言えば、赤い上着に赤いズボン、白いひげをたくわえ、でっぷり太ったおじいさんがトナカイのソリに乗ってやってくる……そんなイメージですが、それを最初にうたったのが、この『サンタクロースがきた』の詩だと言われています。作者は、クレメント・クラーク・ムーアとも、その友人のヘンリー・リビングストン・ジュニアとも言われています。

この詩のサンタクロースの服は、煙突を降りてきたので、真っ黒だったようですが、小太りで、プレゼントの入った大きな袋をかつぎ、トナカイに乗ってやってくるのです。さくらんぼのような鼻とぼら色の頬で、にっこり笑えばえくぼができて、雪のように真っ白なあごひげ、パイプの煙をくゆらせながらウインクするのです。

サンタクロースの赤い服は、コカ・コーラが仕掛けたとも言われますが、実際にはもっと古い時期から赤い服を着ていたことが確認されています。日本でも大正 3 年には「子供の友」に赤い服のサンタクロースが登場していますし、当時すでに子供たちにプレゼントを贈る風習もあったようです。

クリスマスの前の晩、物音に目が覚めたら、外にトナカイに乗ったサンタクロースがいて……もう、そんなことを想像さえしない年令になってしまったけれど、サンタクロースを信じていた頃の心に戻れたら、優しい気持ちに戻ってくるかもしれないな……と思うのです。

12 月 24 日 1818 年オーストリア、オーベルンドルフの聖ニコラウス教会で「きよしこの夜」が初演されました。

この曲の誕生には、びっくりする逸話があります。オーベルンドルフの聖ニコラウス教会では、毎年クリスマスイブの夜パイプオルガンの演奏にあわせて聖歌隊がミサの曲を歌うことになっていました。

ところが、イブの前日パイプオルガンがネズミにかじられて音が出なくなったそうです。慌てたオルガン奏者のフランツ・クサーヴァー・グルーバーは、教会の牧師で友人のヨゼフ・モールに相談しました。

ヨゼフはそのとき教会にある楽器がギターだけであることを踏まえたうえで「きよしこの夜」を作詞したと言います。それにフランツが作曲し、ギター伴奏で、ヨゼフとフランツによって、ほとんど即興のように披露されたそうです。しかし、素敵な詩とメロディーに村人みんなが感動し、帰りながらも口ずさんでいたと言われています。



この曲は、いまや世界中 300 を超える言語に翻訳されて歌われており、最もたくさん翻訳された歌とされています。日本では、1909 年に由木康によって 翻訳され賛美歌として歌われました。1961 年には小学校の教科書にも採用されています。キリスト教徒でなくても、清々しい気持ちになれる歌ですね。

きよし この夜 星は光り  
救いの御子は 馬槽の中に 眠り給う いと安く  
(賛美歌 109 番)

12 月 25 日 1975 年 子門真人の『およげ!たいやきくん』のレコードが発売されました。

たい焼きって、おっちゃんのところとは商売敵ですよ！隣にも店があるし。

ところで この『およげ!たいやきくん』はオリコンのシングルチャート初登場 1 位・11 週連続 1 位で 450 万枚以上売り上げがありました。これは「日本で 最も売れたシングル」でギネスブックにも掲載されているそうです。この数は、日本人の 2 4 人に 1 人がこのレコードを買った計算になるのですって！

子門真人の独特の声と歌い方、そして子供番組から生まれた割には哀愁漂う曲調で、しかも最後に食べられてしまうという衝撃の結末！インパクトありましたね～～～。

1975 年と言えば 山陽新幹線が博多まで開通、集団就職列車の運行がこの年で終了、ベトナム戦争が終結、沖縄国際海洋博覧会開幕、蒸気機関車の事実上の引退、日本初の家庭用テレビゲームが発売、こうしてみれば、新旧の交代がどんどん進んでいった時代のようにです。

この歌詞で思い出したのが、ロシア民話の「おだんごぼん」のお話です。自由になったとって鼻高々で歌など歌っていたら、最後にずるがしこい狐に食べられてしまうのです。脱サラしたいけど、苦勞が待ってるってことなのか？逃げ出した、たい焼きに自分自身を重ね合わせたサラリーマンも多かったとか？！

年末から、『およげ!たいやきくん』をさんざん聞いていたら、初詣に出かけた神社の参道にある露天の鯛焼きを買いたくなる人が多くて、さぞかし「たい焼き屋」は儲かったことでしょうね。羨ましい……

12 月 26 日 1634 年（寛永 11 年 11 月 7 日） 鍵屋の辻の決闘が行なわれました。

おっちゃん、決闘が好きだね～って訳でもないのですが、この「鍵屋の辻の決闘」は別名「伊賀越の仇討ち」とも言い、「曾我兄弟の仇討ち」「赤穂浪士の討ち入り」に並ぶ日本の三大仇討ちのひとつとされています。

仇討ちについては詳しくないのですが「荒木又右衛門」の名前は聞いた事があります。

鍵屋の辻の決闘のお話は？と言えば、岡山藩主・池田忠雄が寵愛していた小姓の渡辺源太夫に、同藩の藩士・河合又五郎が横恋慕し関係を迫ったものの源太夫は冷たく拒否。逆上した又五郎はこれを殺害してしまいます。

なんと、ことの起こりは岡山藩、しかも男色……

源太夫の兄、数馬が又五郎を仇討ちするとき、助太刀を頼んだのが数馬の義理の兄である荒木又右衛門という訳。荒木又右衛門の 36 人切りなどという話もありますが、それはフィクションらしく、実際には二人を切ったのだそうです。

仇討ちなんて血生臭い話ですが、江戸時代には人気だったのか、この荒木又右衛門も、また高田馬場の仇討ちで有名な堀部安兵衛、赤穂浪士、どれもヒーローとして扱われます。浄瑠璃、歌舞伎では人気の高い演目ですね。

12月27日 1959年 第1回日本レコード大賞が開催されました。

社団法人日本作曲家協会および日本レコード大賞制定委員会によって主催され、優れた歌唱によって活かされた作品で大衆の強い支持を得た上、その年度を強く 反映・代表したと認められた作品に贈られるものです。後援が TBS で、TV およびラジオで受賞の様子が「輝く！日本レコード大賞」の番組として放送されます。

レコードと言うものを目にしなくなってから、ずいぶんになるけれども、賞の名前は、いまだにレコード大賞なのですね。1969年から2005年までは大晦日に放送されていました。最近は30日に放送されています。

この賞はアメリカのグラミー賞をヒントにして、古賀政男、服部良一と音楽評論家平井賢によって創設されましたが、当初は知名度も無く、受賞式といえども、ホールはガラガラだったと言います。11回(1969年)あたりから、カラー放送が始まり、その後20年は黄金期といえましょう。

なるほど・・・子供の頃は、確かに大晦日と言えば、この「レコ大」を見て、紅白歌合戦を見て・・・と言うのが恒例でした。国民的番組だったと思います。だからか歴代の大賞作品を見れば、1980年代までの作品は全て、(だいたい?)歌えそうです。

この受賞式の視聴率が1989年から一気に落ちていったらしいのですが、大賞の作品名を見ても、心が躍らないのですよね。「この曲、TVでよく見た」とか「うん、うん、分かる分かる」という感じがしないのです。まあ、おっちゃんも標準的な一視聴者なんですね、きっと。

ところで、レコード大賞には「日本レコード大賞」「最優秀歌唱賞」「優秀作品賞」「最優秀新人賞」などいくつかの部門がありますが、受賞者に送られるのが、吉田芳夫氏が原型を作ったブロンズ像です。長い間、なんだかかけたいなモノをもらっているなあという印象でしたが、こんなブロンズ像だったのね・・・。(今でも、これなのかな?)

今年の最優秀歌唱賞は天童よしみにすでに決っているようです。大賞は?「いきものがかりかな」?またAKBかな?

12月28日 シネマトグラフの日

1895年 リュミエール兄弟が発明したシネマトグラフの映像がパリのグラン・カフェ地階のサロン・ナンディアンで初めて有料公開されました。シネマトグラフとは、撮影と映写の機能を持つ複合映写機のことです。一度に大勢の人が鑑賞できるようスクリーンに映すことができました。

さかのぼること 4 年、エジソンが発明した映画を観る機械はキネトスコープ、撮影機はキネトグラフと言います。このキネトスコープは箱の中を覗きこんで動画を楽しむものでした。

最初に公開された映画は「工場の出口」など 10 タイトルあったそうです。大体 40～50 秒程度の超短編映画です。もちろんモノクロ無声のドキュメンタリーです。ドキュメンタリーというか、普通に風景を撮影したものというか。しかし、観客は相当驚いたのは間違いなさそうです。

キネトスコープは 1896 年、シネマトグラフは 1897 年にそれぞれ日本に入ってきています。また 1903 年には東京に映画館が開設され、全国各地でフィクションの作品も公開されるようになっていきます。思いのほか、早く日本にも映画が広まっていったように感じますね。とにかく欧米のものを吸収しようとする力が強かったに違いありません。

その後、リュミエール兄弟は 1907 年にカラー写真「オートクローム」を発売しています。それまでは、3 枚の乾板を使っていたのとは異なり、乾板一枚だけでカラー写真が撮影できました。赤、緑、青に染めた馬鈴薯澱粉を混合してガラス板上に撒布したもので 1930 年代まではカラー写真の主流でした。

写真を撮りたい、写真を動かしたい、写真に色を付けたい・・・人々が望むことが、どんどん実現していったのです。納得～

12 月 29 日 1984 年 岡山臨港鉄道が全線廃止しました。

岡山臨港鉄道は岡南地区の工業地域化を目指して官民共同で大元駅から岡山港の 8.1km を結んで 1951 年に開業しました。高度成長期には構内地域に新工場の進出や、工場の拡充・生産量の増加、それに伴う人口増加で旅客も増え急成長を遂げました。しかしオイルショック以降、輸送量の減少による経営困難で 1984 年に廃止されました。

経営悪化の要因で考えられるのは、自家用車の増加とトラックによる輸送の増加だろうと思います。トラック輸送に傾いていったのは、国鉄がストライキや合理化によって機能が麻痺していたこともあります。

官民共同で開業した岡山臨港鉄道は、1959 年には株式会社となり、建設業や自動車運送業に進出し、鉄道部門を廃止した後は、跡地を利用した倉庫群を建設し総合物流企業になっています。

この鉄道で岡南地区から市の中心部へ通勤通学する人々は、駅から自転車で職場や学校に自転車を使うことが多かったのも、車両に自転車を持ち込むことが出来たそうです。

今から考えれば、とても都会的な感じがします。市の中心部に向かう自家用車やトラックの軽減は必要なことでしょうし、ヨーロッパなどの通勤風景を見れば、自転車と公共交通機関でのスマート通勤が多いようです。時代の流れと言え、それまでですが、鉄道が無くなったのは残念な気がします。

12 月 30 日 地下鉄記念日

1927年上野から浅草 約0.4kmに東京地下鉄道が開通したのを記念して制定されました。

これは本格的な旅客用の地下鉄の開業ですが、地下鉄が最初に作られたのは1915年東京駅と東京地下郵便局間(0.2km)の郵便物専用の地下鉄でした。

日本の地下鉄は 地盤が弱く、降水量と地震が多いため高度な建設技術が要求されるうえ、建設費用もかさみます。しかし、土地が狭いために都会の交通機関は地下鉄に頼らざるを得ません。

公営地下鉄は東京を始め横浜・大阪・名古屋・京都・神戸・福岡・札幌・仙台にあり、埼玉・広島には民営の地下鉄があります。岡山には地下鉄はありませんが地下鉄に乗ったことの無い人は、いないのではないかと思います。

恐ろしくなるほど下に下に降りて行く地下鉄の閉鎖的な環境は、火災・水害・そしてテロなどの危険が殊更に大きくなる可能性があります。韓国のデグでの地下鉄火災、またサリン事件は地下鉄ゆえの重大事故だったように思います。

最近もトンネルの崩落事故がありましたが、地下鉄の天井が落ちてきたら・・・と考えるとゾッとします。ゲリラ豪雨も頻繁に起こりますから、もし大水が地下鉄に流れ込むことがあれば、大きな災害になるでしょう。「想定外の・・・」などというコメントを、二度と聞くことのないように、安全対策をしてもらいたいですね。

12月31日 1903年 林芙美子が生まれました

林芙美子と言えば「放浪記」、そして「放浪記」と言えば先ごろ亡くなった森光子のでんぐり返しを思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。あのでんぐり返しは原作にも脚本にもないことで森光子のオリジナルのようです。

「放浪記」のイメージがあまりにも強烈なため、林芙美子は貧しく不遇であったように勘違いしていましたが、以前におのみち文学の館で、贅沢な服装で外国まで豪遊できたのだと知り、芙美子の売れっ子ぶりに驚いたのです。

行商人の子として各地を点々としながら育ちましたが、尾道で女学校時代を過ごしていますので、放浪記の中でも「海が見える 海が見えた 五年振りに見る尾道の海は懐かしい」と尾道をふるさとのように懐かしんでいます。いろいろな所で暮らすことに抵抗が無かったのか、女性ながら従軍作家として戦地にも赴いているのにはビックリです。

林芙美子の作品にはNHKの朝ドラになった「うず潮」があります。朝ドラは「放浪記」と「うず潮」を元にオリジナルの脚本になっていますが、たくましい林芙美子の生き方を描いており、高い視聴率を記録しています。